

大田区自然観察路「川と干潟のみち」等の
生物・植物調査

報告書

平成 22 年 3 月

大 田 区

目 次

1. 業務概要	1
1.1 業務名称	1
1.2 業務目的	1
1.3 業務フロー	1
1.4 調査項目及び現地調査時期	2
1.5 調査範囲	3
1.6 現地調査方法	7
1.7 業務体制	11
2. 現地調査結果	12
2.1 植物・植生調査	12
2.1.1 調査実施日	12
2.1.2 調査結果	13
(1) 植物相調査	13
(2) 植生図	38
2.2 昆虫類調査	42
2.2.1 調査実施日	42
2.2.2 調査結果	43
(1) 結果概要	43
(2) 重要種	44
(3) 外来種	51
2.3 鳥類調査	52
2.3.1 調査実施日	52
2.3.2 調査結果	53
(1) 結果概要	53
(2) 重要種	59
(3) 外来種	63

2.4 哺乳類・爬虫類・両生類調査	64
2.4.1 調査実施日	64
2.4.2 調査結果	65
(1) 結果概要	65
(2) 重要種	67
(3) 外来種	69
2.5 陸産貝類調査	70
2.5.1 調査実施日	70
2.5.2 調査結果	71
(1) 結果概要	71
(2) 重要種	73
(3) 外来種	75
2.6 土壌生物調査	76
2.6.1 調査実施日	76
2.6.2 調査結果	77
(1) 結果概要	77
(2) 重要種	78
(3) 外来種	80
2.7 水生生物調査	81
2.7.1 調査実施日	81
2.7.2 調査結果	82
(1) 結果概要	82
(2) 重要種	86
(3) 外来種	90
2.8 重要種確認位置	92
2.9 外来種確認位置	101

3. 既往調査結果との比較	110
3.1 植物	110
3.1.1 引用文献	110
3.1.2 重要種の経年確認状況の比較	111
3.1.3 外来種の経年確認状況の比較	112
3.2 昆虫類	113
3.2.1 引用文献	113
3.2.2 重要種の経年確認状況の比較	114
3.2.3 外来種の経年確認状況の比較	114
3.3 鳥類	115
3.3.1 引用文献	115
3.3.2 重要種の経年確認状況の比較	115
3.3.3 外来種の経年確認状況の比較	115
3.4 哺乳類・爬虫類・両生類	116
3.4.1 引用文献	116
3.4.2 重要種の経年確認状況の比較	116
3.4.3 外来種の経年確認状況の比較	116
3.5 水生生物	117
3.5.1 引用文献	117
3.5.2 重要種の経年確認状況の比較	117
3.5.3 外来種の経年確認状況の比較	118
4. まとめ	119
4.1 公園	119
4.1.1 萩中公園	119
4.1.2 大師橋緑地及び六郷橋緑地	121
4.2 樹林帯	123
4.3 移行帯（下流部、上流部）	125
4.4 干潟植生有（下流部、上流部）	127
4.5 干潟植生無（下流部、上流部）	1

1. 業務概要

1.1 業務名称

大田区自然観察路「川と干潟のみち」等の生物・植物調査

1.2 業務目的

本業務は、多摩川自然観察路を中心とした多摩川河川敷の生物について調査を実施し、生物相の状況を把握することにより、区民等が自然観察を行う際の資料及び、自然環境や環境保全施策の基礎として利用することを目的とした。

また、過去に行った調査結果と比較して生物相の変化状況を把握し、気候変動、その他の環境の変化を推察する資料とし、併せて当該観察路の外来生物の実態を把握し、今後の予測及び対策の必要性についての検討資料とする。

1.3 業務フロー

本業務の業務フローを図 1.1に示す。

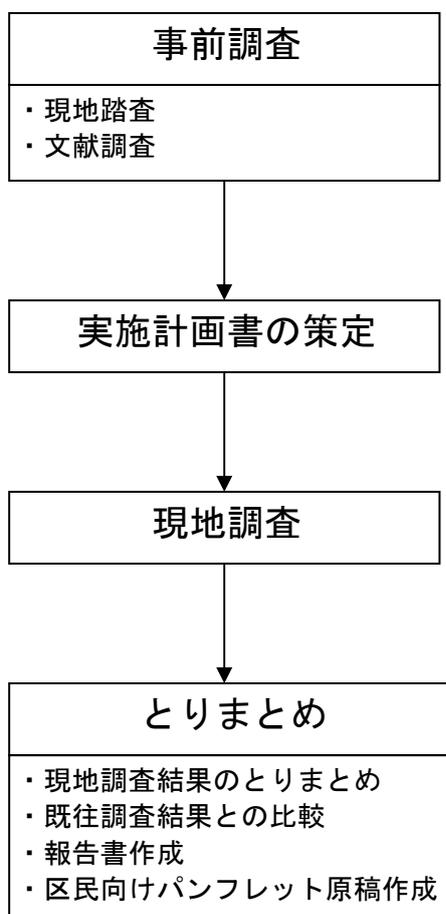


図 1.1 業務フロー

1.4 調査項目及び現地調査時期

本業務の調査項目は表 1.1に示す6項目とし、各項目ともに6月、8月、11月及び2月の各月に1回ずつ計4回実施した。なお、水生生物調査の春季調査は、川崎河川漁業協同組合との同意協議の結果7月に実施した。

表 1.1 調査項目及び調査時期

	調査項目	調査時期
1	植物・植生調査	春季：6月（水生生物のみ7月） 夏季：8月 秋季：11月 冬季：2月
2	昆虫類調査（クモ類含む）	
3	鳥類調査	
4	哺乳類・爬虫類・両生類調査	
5	陸産貝類調査	
6	土壌生物調査	
7	水生生物調査（魚類含む）	

1.5 調査範囲

調査範囲は、図 1.2に示す、東京都大田区内多摩川河川敷（大師橋上流～東海道線河川橋）及び萩中公園とした。

また、調査範囲を環境類型別に表 1.2 (1)～(2)及び図 1.3に示す5環境10地点に分け、地点別に調査結果をまとめた。

なお、水域の調査範囲は、干潟周辺の水域とした。



図 1.2 調査範囲

表 1.2 (1) 調査区分その1

環境類型	写真	特徴	地点名	調査項目	予想される出現種
公園		グラウンド、芝生、植栽樹林等が存在する人工的な環境	萩中公園 (約6万4千㎡) 大師橋緑地 (約12万6千㎡) 六郷橋緑地 (約29万4千㎡)	植物・植生調査	シロツメクサ、オオバコ、シバ
				昆虫類調査	ジョロウグモ、ショウリョウバッタ、モンキチョウ、ナナホシテントウ、アリ類
				鳥類調査	ドバト、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス
				哺乳・爬虫・両生類調査	モグラ類、トカゲ類
				陸産貝類調査	オカチョウジガイ類、オナジマイマイ
				土壌生物調査	ダンゴムシ類、ミミズ類
樹林帯		河川敷の低木林	樹林帯 (約5千㎡)	植物・植生調査	エノキ、ケヤキ
				昆虫類調査	エンマコオロギ、アブラゼミ、
				鳥類調査	キジバト、ホオジロ、カワラヒワ
				哺乳・爬虫・両生類調査	カナヘビ
				陸産貝類調査	ミジンマイマイ、ウスカワマイマイ
				土壌生物調査	ムカデ類、ダンゴムシ類
移行帯		湿地性の植物と陸生の植物が混生する地帯	移行帯(下流部) (約5万㎡) 移行帯(上流部) (約8万7千㎡)	植物・植生調査	タチヤナギ、タデ類、アメリカセンダングサ、ヨシ、セイタカアワダチソウ
				昆虫類調査	トンボ類、ヨコバイ類、コガネムシ類、
				鳥類調査	セッカ、オオヨシキリ
				哺乳・爬虫・両生類調査	カエル類、ヘビ類
				陸産貝類調査	スナガイ、ナタネガイ類、ナメクジ
土壌生物調査	トビムシ類、クロベンケイガニ				

表 1.2 (2) 調査区分その2

環境類型	写真	特徴	地点名	調査項目	予想される出現種
干潟 植生有		潮汐の影響を受ける塩性湿地で、ヨシ類やシオクグ等塩耐性のある植物が優占する地帯	干潟植生有 (下流部) (約1万9千㎡)	植物・植生調査	シオクグ、エゾウキヤガラ
			干潟植生有 (上流部) (約15万7千㎡)	鳥類調査	バン、シギ類、カモメ類
				水生生物調査	ボラ、マサゴハゼ、アベハゼ、カワザンショウガイ、アシハラガニ
干潟 植生無		潮汐の影響を受ける塩性湿地で、植物の生育が見られない地帯	干潟植生無 (下流部) (約5万6千㎡)	鳥類調査	カワウ、カモ類、カモメ類
			干潟植生無 (上流部) (約8万8千㎡)	水生生物調査	スズキ、マハゼ、トビハゼ、ヤマトシジミ、ゴカイ類、チゴガニ、ヤマトオサガニ

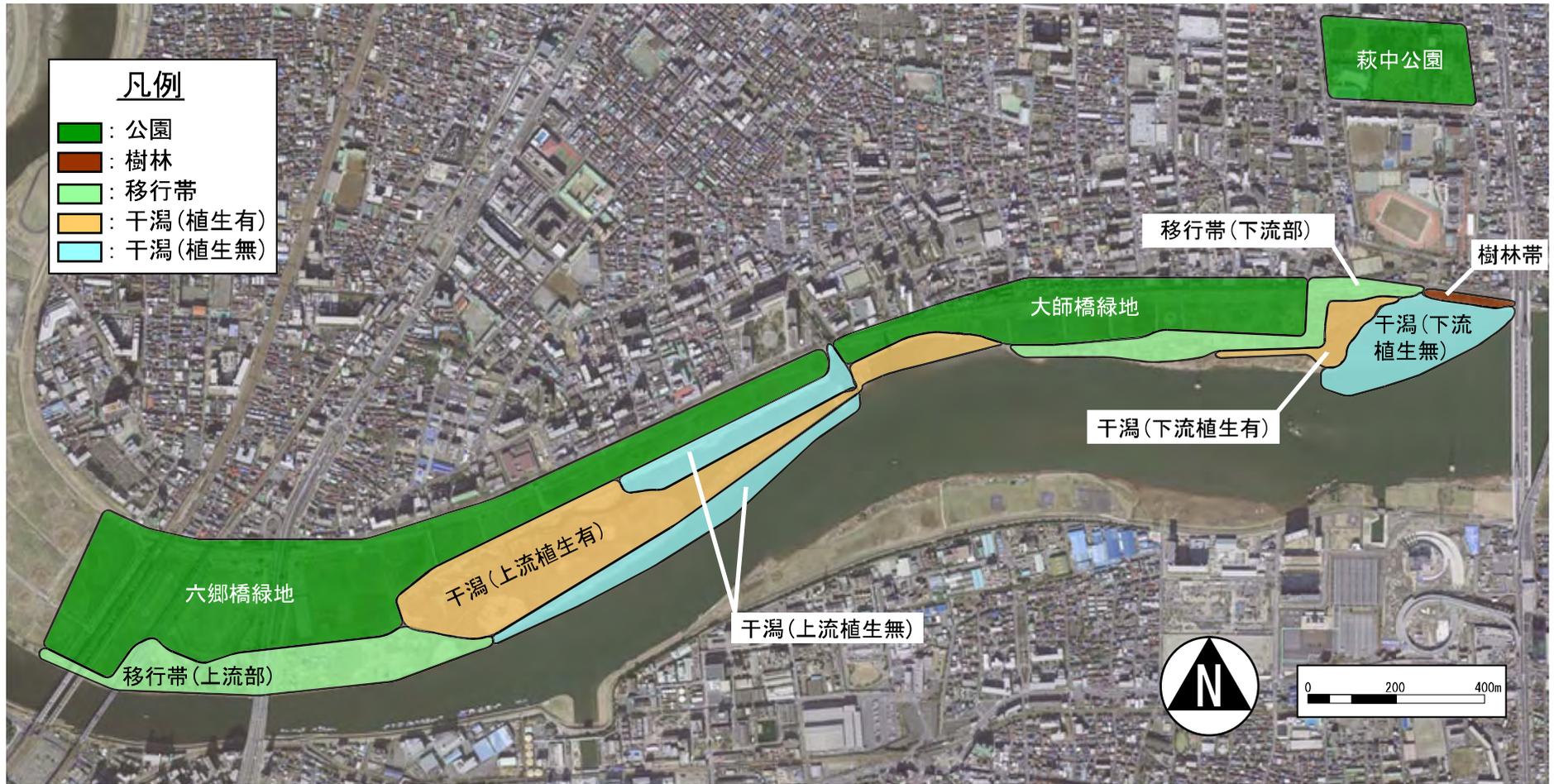


图 1.3 調査区分図

1.6 現地調査方法

各調査項目別の調査方法を表 1.3(1)～(3)に示す。

調査は相調査を基本とし、区民が観察する事が容易である身近な代表的な種を記録する事に主眼を置いた。加えて「環境省レッドリスト」※（以下環境省 RL）及び「東京都の保護上重要な野生生物種（1998）」（以下東京都 RDB）に記載されている種を重要種として記録し、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」に記載されている特定外来種及び要注意外来生物を外来種として記録した。また、植物・植生調査に関しては、この外来種に加え、江戸末期以降に国内に持ち込まれ野生化した種を帰化植物として記録した。

なお、土壌生物調査の対象種は、調査対象環境区分である、公園、樹林帯、移行帯で確認された生物のうち、昆虫類及び陸産貝類調査の対象生物群を除いた無脊椎動物とした。

※「日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト」のこと。何度か見直しが行われ、現在は平成 18～19 年に見直されたリストが最新である。

表 1.3 (1) 調査方法その1

調査項目	調査方法	調査風景
1. 植物・植生調査	<p>目視調査 →調査地区内を踏査し、確認種を記録する。また、夏季調査時の生育状況から植生図を作成する。</p>	
2. 昆虫類調査	<p>目視調査 →調査地区内全域を踏査し、確認種を記録する。</p>	
	<p>任意採集調査 スィーピング法 →捕虫ネットを強く振り、草や花をなぎ払うようにしてすくい取る。特定の種を狙うのではなく、草や花の上に静止している全ての昆虫を対象とした方法。</p>	
	<p>ビーティング法 →木の枝、草等を棒で叩いて下に落ちた昆虫類を網で受け取る。直接目で探すのが困難な昆虫を効率よく採集できる。</p>	
	<p>石おこし採集 →石やゴミをおこしてそこに生息する昆虫類を採集する。</p>	
	<p>見つけ採り →直接見つけた昆虫類を採集する。</p>	

表 1.3 (2) 調査方法その2

調査項目	調査方法	調査風景
3. 鳥類調査	<p>目視及び鳴き声調査 →調査地区内を踏査し、直接確認した種及び鳴き声を聞いた種を記録する。</p>	
4. 哺乳類・爬虫類・両生類調査	<p>目視調査 →調査地区内を踏査し、直接目視した種、及びフィールドサイン（足跡、糞、巣といった動物の痕跡）を確認した種を記録する。</p>	
5. 陸産貝類調査	<p>任意採集調査 石おこし採集 →石やゴミをおこしてそこに生息する貝類を採集する。</p>	
	<p>見つけ採り →直接見つけた貝類を採集する。</p>	
6. 土壌生物調査	<p>任意採集調査 石おこし採集 →石やゴミをおこしてそこに生息する土壌生物を採集する。</p>	

表 1.3 (3) 調査方法その3

調査項目	調査方法		調査風景
7. 水生生物調査	任意採集調査	<p>投網 →投網を用いて遊泳している魚類を採集する。本調査では網目 12mm 及び 18mm を用いた。</p>	
		<p>タモ網 →タモ網を用いて底生性の魚類及び底生動物を採集する。本調査では網目 1mm を用いた。</p>	

1.7 業務体制

本業務の業務体制を図 1.4に示す。

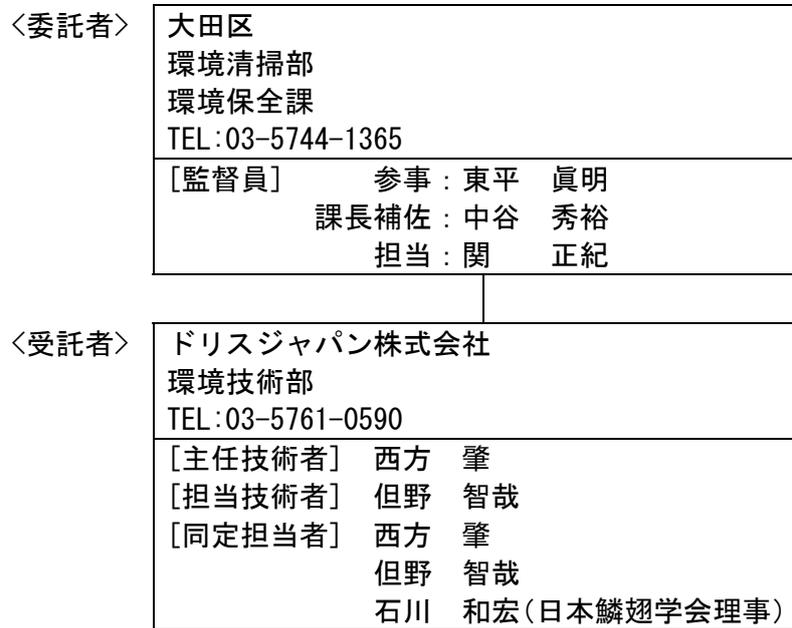


図 1.4 業務体制

2. 現地調査結果

2.1 植物・植生調査

2.1.1 調査実施日

植物・植生調査の調査実施日を表 2.1に示す。調査は各季節1回、計4回実施した。

表 2.1 植物調査実施日

季節	実施日
春季	平成 21 年 6 月 20 日
夏季	平成 21 年 8 月 22 日
秋季	平成 21 年 11 月 29 日
冬季	平成 22 年 2 月 6 日

2.1.2 調査結果

(1)植物相調査

1)結果概要

植物・植生調査結果の分類群別概要を表 2.2に、地点別、季節別結果概要を表 2.3に示す。また、全確認種を表 2.4 (1)～(8)に示す。

植物・植生調査で確認された種は、4季合わせて87科316種であった。分類群別にみると、シダ植物は2科2種、裸子植物は4科5種、双子葉類離弁花類が52科157種、双子葉類合弁花類が17科85種、単子葉類が12科67種であった。また、そのうち帰化植物は76種、植栽種及び植栽されていたものが逸出したと思われる種(逸出種)は89種であり、全体の種数から、植栽種及び逸出種を除いた種数に占める帰化植物の割合(帰化率)は、地点別には約30～45%の範囲であり、全体では33.5%であった。なお、帰化植物とは人間の活動によって外国から日本に持ち込まれ野生化した植物であり、都市部周辺では帰化率が高くなる傾向がある。これらの帰化植物のうち、外来生物法により特定外来生物及び要注意外来生物に指定されているものについては3)外来種で後述する。

季節別に確認種数が最も多かったのは、261種が確認された春季であった。また地点別では、168種が確認された萩中公園が最も多く、次いで移行帯上流部、樹林帯と続いた。なお、萩中公園は公園であるため、そのうち78種は植栽種及び逸出種であり、自生種は90種であった。

調査地区別に特に多かった種(以下優占種)は、公園のうち萩中公園では、ウラジロチチコグサやヒメジョオンなど、大師橋緑地及び六郷橋緑地ではシロツメクサ、オオフトバムグラ、カロリナアオイゴケ、オオバコなどであった。樹林帯ではエノキ、アキニレ、トウネズミモチなど、移行帯ではオギ、アイアシ、ヨシなど、干潟植生有ではヨシ、シオクグ、エゾウキヤガラなどであった。以下(24ページ～)にこれらの種の概要を述べる。

表 2.2 植物相調査結果概要（全体）

分類群			調査全体		季節別種数			
			科数	種数	春	夏	秋	冬
シダ植物			2	2	1	2	1	0
種子植物	裸子植物		4	5	5	5	5	5
	被子植物	双子葉類	52	157	135	126	114	88
		合弁花類	17	85	66	65	49	40
		単子葉類	12	67	54	47	39	23
合計			87	316	261	245	208	156
帰化植物			-	76	65	54	36	25
植栽種・逸出種			-	89	82	76	71	67
帰化率 [※]			33.5%		36.3%	32.0%	26.3%	28.1%

※帰化率は全体の種数から植栽種と逸出種を除いた種数に占める帰化植物の割合

表 2.3 植物相調査結果概要（地点別・季節別）

分類群		公園												樹林帯				移行帯								干潟植生有								
		萩中公園				大師橋緑地				六郷橋緑地								下流部				上流部				下流部				上流部				
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	
シダ植物		1	2										1	1			1	1			1	1	1											
種子植物	裸子植物		5	5	5	5																												
	被子植物	双子葉類	離弁花類	76	65	64	61	9	8	12	9	26	29	24	19	41	33	27	20	23	26	15	10	44	47	36	23	3	3	2		3	3	1
		合弁花類	40	35	33	26	8	8	12	10	14	17	11	11	15	14	10	9	19	21	7	6	23	25	20	14					2	2	1	1
		単子葉類	21	18	11	8	7	4	6	3	13	14	11	3	22	13	9	8	19	17	12	5	12	14	14	7	3	2	1	1	5	5	5	5
合計		143	125	113	100	24	20	30	22	53	60	46	33	79	61	46	37	62	65	34	21	80	87	71	44	6	5	3	1	10	10	7	6	
		168				42				87				89				86				124				8				10				
帰化植物		33				17				27				23				30				40				2				3				
植栽種・逸出種		78				3				10				12				4				11				1				0				
帰化率		36.7%				43.6%				35.1%				29.9%				36.6%				35.4%				28.6%				30.0%				

表 2.4 (1) 植物相調査結果 (確認全種) その1

調査年月日：春季 平成 21 年 6 月 20 日
 夏季 平成 21 年 8 月 22 日
 秋季 平成 21 年 11 月 29 日
 冬季 平成 22 年 2 月 6 日

調査方法：目視調査

番号	科名	種名	環境省 RL	東京都 ROB (東部)	備考 ^{※1}	公園												樹林帯			
						萩中公園				大餅橋緑地				六郷橋緑地				春	夏	秋	冬
						春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬				
1	トクサ	スギナ				●												●			
2	メシダ	イヌワラビ				●															
3	イチヨウ	イチヨウ			植栽	○	○	○	○												
4	マツ	ヒマラヤスギ			植栽	○	○	○	○												
5		クロマツ			植栽	○	○	○	○												
6	ヒノキ	カイヅカイブキ			植栽	○	○	○	○												
7	イチイ	カヤ			植栽	○	○	○	○												
8	ヤマモモ	ヤマモモ			植栽	○	○	○	○												
9	クルミ	オニグルミ												●	●	●	●	●	●	●	●
10	ヤナギ	セイヨウハコヤナギ			植栽	○	○	○	○												
11		シダレヤナギ			植栽	○	○	○	○												
12		タチヤナギ																			
13	ブナ	クリ			植栽	○	○	○	○												
14		マテバシイ			植栽	○	○	○	○												
15		シラカシ			植栽	○	○	○	○												
16		コナラ			植栽	○	○	○	○												
17	ニレ	エノキ			植栽	○	○	○	○											☆	☆
18		アキニレ			植栽	○	○	○	○											☆	☆
19		ケヤキ			植栽	○	○	○	○											○	○
20	クワ	クワクサ																			
21		イチジク			植栽																
22		カナムグラ																			
23		ヤマグワ				●	●	●	●												
24	イラクサ	ヤブマオ																			
25		カラムシ												●	●						
26	タデ	ミスヒキ					●														
27		オオイスタデ																			
28		イスタデ																			
29		ママコノシリヌグイ																			
30		ミチヤナギ																			
31		イタドリ																			
32		スイバ																			
33		ヒメスイバ			帰化種	●															
34		アレチギシギシ			帰化種	●															
35	オシロイバナ	オシロイバナ			植栽	●															
36	スベリヒユ	スベリヒユ				●	●	●	●												
37	ツルムラサキ	ツルムラサキ			植栽	●	●	●	●												
38	ナデシコ	ノミノツツリ																			
39		オランダミミナグサ			帰化種	●	●	●	●												
40		ツメクサ				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
41		ムシトリナデシコ			帰化種	●															
42		ウシオハナツメクサ			帰化種																
43		ウシハコベ																			
44		コハコベ			帰化種	●															
45	アカザ	ホソバハマアカザ																			
46		ホコガタアカザ			帰化種																
47		シロザ				●															
48		アカザ			帰化種																
49		ケアリタソウ																			
50		ゴウシュウアリタソウ			帰化種	●															
51	ヒユ	ヒカゲイノコズチ																			
52		ヒナタイノコズチ					●														
53		アオビユ			帰化種																
54	モクレン	ユリノキ			植栽	○	○	○	○												
55		タイサンボク			植栽	○	○	○	○												
56	マツバサ	サネカズラ																			
57	クスノキ	クスノキ			植栽	○	○	○	○												
58		タブノキ			植栽	○	○	○	○												
59		シロダモ																			
60	キンボウゲ	ボタンツル																			
61		センニンソウ																			
62		キツネノボタン																			
63	メギ	ヒイラギナンテン			植栽	○	○	○	○												
64	アケビ	アケビ																			
65		ミツバアケビ																			
66	ツツラフジ	アオツツラフジ																			
67	ドクダミ	ドクダミ				●	●	●	●												
68	ツバキ	ヤブツバキ																			
69		サザンカ			植栽	○	○	○	○												
70		ヒサカキ			植栽	○	○	○	○												
71	オトギリソウ	キンシバイ			植栽	○	○	○	○												
72	ケシ	ナガミヒナゲシ			帰化種	●															
73	アブラナ	セイヨウアブラナ			植栽																
74		ナズナ																			
75		タネツケバナ					●														
76		カラクサナズナ			帰化種																
77		マメヅクバイナズナ			帰化種	●															
78		ニワナズナ			植栽	○	○	○	○												
79		ハマダイコン																			
80		イヌガラシ				●															

表 2.4 (2) 植物相調査結果 (確認全種) その2

調査年月日：春季 平成 21 年 6 月 20 日
 夏季 平成 21 年 8 月 22 日
 秋季 平成 21 年 11 月 29 日
 冬季 平成 22 年 2 月 6 日

調査方法：目視調査

番号	科名	種名	環境省 RL	東京都 RDB (東部)	備考 ^{※1}	公園												樹林帯					
						萩中公園				大師権緑地				六郎権緑地				春	夏	秋	冬		
						春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬						
81	アブラナ	スカシタゴボウ				●	●	●															
82		カキネガラシ			帰化種																		
83	マンサク	モミジバズカケノキ			帰化種	○	○	○	○														
84	ベンケイソウ	コモチマンネングサ																					
85		ツルマンネングサ			帰化種																		
86	ユキノシタ	ウツギ				○	○	○	○														
87		アジサイ				○	○	○	○														
88	トベラ	トベラ				○	○	○	○														
89	バラ	ヤブヘビイチゴ																					
90		ビワ			帰化種	○	○	○	○														
91		ミツバツチグリ				●				●													
92		オヘビイチゴ																					
93		ウメ			帰化種	○	○	○	○														
94		ソメイヨシノ			帰化種	○	○	○	○														
95		トキワサンザシ			帰化種	○	○	○	○														
96		シャリンバイ			帰化種	○	○	○	○														
97		シロヤマブキ	EN		帰化種	○	○	○	○														
98		ノイバラ																					
99		クサイチゴ																					
100		モミジイチゴ																					
101		ナフシロイチゴ																					
102		カジイチゴ																					
103		シキツケ			帰化種	○	○	○	○														
104		ユキヤナギ			帰化種	○	○	○	○														
105	マメ	ヤブマメ																					
106		ハナズオウ			帰化種																		
107		ヤハズソウ																					
108		メドハギ																					
109		ネコハギ																					
110		クズ																					
111		ハリエンジュ			帰化種・要注意4	○	○	○	○														
112		クスタマツメクサ			帰化種																		
113		ムラサキツメクサ			帰化種	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
114		シロツメクサ			帰化種	●	●	●	●	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
115		モモイロシロツメクサ			帰化種																		
116		ヤハズエンドウ																					
117		フジ			帰化種	○	○	○	○														
118	カタバミ	イモカタバミ			帰化種	○	○	○	○														
119		カタバミ				●	●	●	●														
120		アカカタバミ				●	●	●	●														
121		ウスアカカタバミ																					
122		ムラサキカタバミ			帰化種・要注意2																		
123		オウツチカタバミ			帰化種	●																	
124	フウロソウ	ゲンノショウコ																					
125	トウダイグサ	エノキグサ				●	●																
126		ニシキソウ																					
127		コニシキソウ			帰化種	●	●	●	●														
128		アカメギシフ				●	●	●	●														
129	ニガキ	シンジュ			帰化種	○	○	○	○														
130	ウルシ	ツタウルシ																					
131	ムクロジ	フウセンカズラ			帰化種																		
132	トチノキ	トチノキ			帰化種	○	○	○	○														
133	モチノキ	イヌツゲ			帰化種	○	○	○	○														
134		ソヨゴ																					
135	ニシキギ	ツルウメモドキ																					
136		ニシキギ			帰化種	○	○	○	○														
137		マサキ																					
138	ブドウ	ノブドウ																					
139		ヤブガラシ				●	●																
140		ツタ			帰化種	○	○	○	○														
141	アオイ	フヨウ			帰化種	○	○	○	○														
142	グミ	ナフシログミ			帰化種	○	○	○	○														
143	スマレ	タチツボスミレ				●	●	●	●														
144		スマレ				●																	
145		サンシキスミレ			帰化種	○																	
146		シハイスミレ					●																
147	シュウカイドウ	ベゴニア属の一種			帰化種	○																	
148	ウリ	スズメウリ																					
149		アレチウリ			帰化種・特定																		
150		キカラスウリ																					
151	ミソハギ	サルズベリ			帰化種	○	○	○	○														
152	アカバナ	メマツヨイグサ			帰化種・要注意2																		
153		コマツヨイグサ			帰化種・要注意2	●	●																
154		ユウゲショウ			帰化種	○	○	○	○														
155	ミズキ	アオキ			帰化種	○	○	○	○														
156	ウコギ	ヤツデ				●	●	●	●														
157		キツタ																					
158	セリ	マツバゼリ			帰化種																		
159		ノチドメ																					
160		オオチドメ																					

優占種

○エノキ (*Celtis sinensis* var. *japonica*) [ニレ科] 夏緑性の高木



分布：本州、四国、九州

高さ：20～25m

花期：4月

特徴：自然林では溪谷沿いの土壌が肥沃な斜面に生育するが、乾燥地、過湿地にも耐えることができる。果実は赤橙色に熟す。

○アキニレ (*Ulmus parvifolia*) [ニレ科] 夏緑性の高木



分布：本州（中部以西）、四国、九州

高さ：15m

花期：8月下旬～9月上旬

特徴：とくに河畔に生育するが、乾燥にも耐えるため公園などに植栽されるほか、盆栽にも使われる。

○シロツメクサ (*Trifolium repens*) [マメ科] 常緑性の多年草



分布：全国各地

高さ：20～30cm

花期：4～6月

特徴：ヨーロッパ原産で江戸時代に帰化したが、明治時代に牧草として導入し栽培した物が野生化し、全国に広がった。路傍、空き地、堤防、畑地周辺などに生育する。

○トウネズミモチ (*Ligustrum lucidum*) [モクセイ科] 常緑性の高木



分布(原産)：中国

高さ：10～20m

花期：6～7月

特徴：要注意外来生物。低地に普通。公園や街路に植栽され逸出した。

○オオフトバムグラ (*Diodia teres*) [アカネ科] 夏緑性の1年草



分布(原産)：北アメリカ

高さ：10～50cm

花期：7～8月

特徴：要注意外来生物。海岸や川原の砂地に生育する。

○カロリナアオイゴケ (*Dichondra carolinensis*) [ヒルガオ科] 夏緑性の多年草



分布(原産)：北アメリカ

高さ：1.5～3cm

花期：3～6月

特徴：ダイコンドラの名で地被植物として園芸店で売られており、日陰の環境などで芝生代わりに使われ逸出して広がっている。

○オオバコ (*Plantago asiatica*) [オオバコ科] 常緑性の多年草



分布：北海道、本州、四国、九州

高さ：15～20cm

花期：4～9月

特徴：路傍、空き地、畦などに広く生育する。踏まれることに強いため、人の踏みつけの多い場所に生育する代表的な人里植物である。

○ウラジロチチコグサ (*Gnaphalium spicatum*) [キク科] 冬緑性の2年草



分布(原産)：北アメリカ

高さ：約20cm

花期：5～6月

特徴：乾いた路傍、空閑地にきわめて普通。

○ヒメジョオン (*Stenactis annuus*) [キク科] 冬緑性の1~2年草



分布(原産)：北アメリカ

高さ：30~120cm

花期：6~10月

特徴：畑、路傍、土手など至る所に生育する。

○オギ (*Miscanthus sacchariflorus*) [イネ科] 夏緑性の多年草



分布：北海道、本州、四国、九州

高さ：2~2.5m

花期：9~10月

特徴：河川の中流部に沿った湿った砂質地に生育し、冠水にも耐えて大きな群落となる。

○アイアシ (*Phacelurus latifolius*) [イネ科] 夏緑性の多年草



分布：北海道~南西諸島

高さ：80~130cm

花期：6~7月

特徴：各地の塩性湿地周辺に生育する。

○ヨシ (*Phragmites australis*) [イネ科] 夏緑性の多年草



分布：北海道~南西諸島

高さ：1~3m

花期：8~10月

特徴：湖沼や河川など、いたるところの水湿地に群生する大形の抽水植物。

○シオクグ (*Carex scabrifolia*) [カヤツリグサ科] 夏緑性の多年草



分布：北海道～南西諸島

高さ：約 50cm

花期：5月 果期：5月下旬～7月

特徴：海水が流入する河川や塩性湿地に生育し、根茎で繁殖するため群生し、純群落をつくっている場合が多い。

○エゾウキヤガラ (*Scirpus planiculmis*) [カヤツリグサ科] 夏緑性の多年草



分布：北海道、本州、四国、九州、南西諸島

高さ：20～100cm 花期：7～10月

果期：8～11月

特徴：海岸近くの湿地などに生育する多年草。長い地下茎がある。

2)重要種

植物・植生調査で確認された重要種とその選定根拠を表 2.5に、確認地点を表 2.6に示す。

植物・植生調査で確認された重要種は、環境省 RL で準絶滅危惧 (NT) に指定されているカワヂシャ等 6 種であった。なお、環境省 RL で絶滅危惧 I B 類 (EN) に指定されているシロヤマブキ、及び準絶滅危惧 (NT) に指定されているシランが萩中公園で確認されたが植栽であった。

地点別にみると、重要種が確認された地点は 5 地点であり、最も多く確認された地点は 4 種が確認された移行帯上流部であった。

以下に重要種の概要を述べる。

表 2.5 重要種の選定根拠 (植物)

番号	科名	種名	選定根拠			
			1	2	3	4
1	バラ	シロヤマブキ*			EN	
2	ゴマノハグサ	カワヂシャ			NT	
3	イネ	ミノゴメ				C
4		ミノボロ				C
5		アイアシ				B
6	カヤツリグサ	シオクグ				C
7		エゾウキヤガラ				C
8	ラン	シラン*			NT	

*植栽種

注) 選定根拠

- 「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)に基づき指定される天然記念物及び特別天然記念物。または、都道府県及び市町村が条例により指定する天然記念物
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)に基づき指定される国内希少動植物種
- 「環境省レッドリスト 維管束植物(環境省:2007)」に記載された種
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR:絶滅危惧 I A類、EN:絶滅危惧 I B類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、LP:絶滅のおそれのある地域個体群
- 「東京都の保護上重要な野生生物種—1998年版—(東京都環境保全局)」に記載された種(東部地区)
 - 絶滅の危機に瀕している種
環境庁 RDB (1991年発行の環境庁(当時)版レッドデータブック)の「絶滅危惧種(絶滅危惧 I 類)」に相当する種
 - 絶滅の危機が増大している種
環境庁 RDBの「危急種(絶滅危惧 II 類)」に相当する種
 - 生息環境の変化により A ランクや B ランクへの移行が危惧される種
環境庁 RDBの「希少種(準絶滅危惧)」に相当する種
 - 野生で絶滅と判断される種・ここ50年程観察例のない種
 - 生息域が限定されていたり孤立しており、地域レベルで考慮すると絶滅の危機が増大している種(地域限定種)

表 2.6 重要種確認地点 (植物)

番号	種名	公園												樹林帯				移行帯								干潟植生有							
		萩中公園				大師橋緑地				六郷橋緑地				樹林帯				下流部				上流部				下流部				上流部			
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
1	シロヤマブキ	○	○	○	○																												
2	カワヂシャ																																
3	ミノゴメ																																
4	ミノボロ	●												●	●			●															
5	アイアシ																	●	●	●	●												
6	シオクグ																													●	●	●	●
7	エゾウキヤガラ																													●	●	●	●
8	シラン	○	○																														
合計		3	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2
地点別合計		3				0				0				1				3				1				0				2			

※1 表中の●は自生、○は植栽を示す。

○シロヤマブキ (*Rhodotypos scandens*) [バラ科] 夏緑性の低木



分布：本州（中国地方）、四国

高さ：2m

花期：4月 果期：9～10月

特徴：中国地方の山地に希に自生するが、園芸目的の採集によって激減した。

○カワヂシャ (*Veronica undulata*) [ゴマノハグサ科] 冬緑性の1年草



分布：本州、四国、九州、南西諸島

高さ：20～60cm

花期：5～6月

特徴：溝、川岸、湿田などに生育し、水路などでは完全な水中型もみられる。

○ミノゴメ (*Beckmannia syzigachne*) [イネ科] 冬緑性の1～2年草



分布：北海道～九州

高さ：30～90cm

花期：4～5月 果期：6月

特徴：水田、あぜ、水路、湿地に生育し、水田跡地や耕す前の水田に大群落を作る。

○ミノボロ (*Lophochloa cristata*) [イネ科] 常緑性の多年草



分布：北海道、本州、四国、九州

高さ：20～50cm

花期：5月～7月

特徴：道端や草地などの日当たりの良い芝草地などに生育する。

○アイアシ (*Phacelurus latifolius*) [イネ科] 夏緑性の多年草

※詳細は 26 ページ参照

○シオクグ (*Carex scabrifolia*) [カヤツリグサ科] 夏緑性の多年草

※詳細は 27 ページ参照

○エゾウキヤガラ (*Scirpus planiculmis*) [カヤツリグサ科] 夏緑性の多年草

※詳細は 27 ページ参照

○シラン (*Bletilla striata*) [ラン科] 夏緑性の多年草



分布：本州（関東地方以西）、四国、九州、南西諸島

高さ：50cm

花期：5～6月

特徴：日当たりの湿地や崖地に生育する。数センチの間隔を置いて太い地下茎で連なる。庭などによく植えられる。

3) 外来種

植物・植生調査で確認された外来種（外来生物法で特定外来生物及び要注意外来生物に指定されている種）を表 2.7に、確認地点を表 2.8に示す。なお植物・植生調査では、前述のように多くの帰化植物が確認されているが、本項では特定外来生物及び要注意外来生物のみを取り上げた。

植物・植生調査で確認された外来種は、特定外来生物に指定されているアレチウリ、オオカワヂシャ等 26 種であった。なお、要注意外来生物リストに記載されているハリエンジュ、トウネズミモチが萩中公園及び樹林帯で確認されたが、これは植栽及び逸出種であった。

地点別にみると、外来種が確認された地点は 7 地点であり、最も多く確認された地点は 16 種が確認された移行帯下流部及び上流部であった。

以下に外来種の概要を述べる。

表 2.7 外来種の選定根拠（植物）

番号	科名	種名	選定根拠	
			1	2
1	マメ	ハリエンジュ		(4)
2	カタバミ	ムラサキカタバミ		(2)
3	ウリ	アレチウリ	○	
4	アカバナ	メマツヨイグサ		(2)
5		コマツヨイグサ		(2)
6	モクセイ	トウネズミモチ*		(4)
7	アカネ	オオフタバムグラ		(2)
8	ヒルガオ	アメリカネナシカズラ		(2)
9	ナス	ワルナスビ		(2)
10	ゴマノハグサ	オオカワヂシャ	○	
11	ハマウツボ	ヤセウツボ		(2)
12	オオバコ	ヘラオオバコ		(2)
13	キク	ブタクサ		(2)
14		オオブタクサ		(1)
15		アメリカセンダングサ		(2)
16		オオアレチノギク		(2)
17		オオキンケイギク	○	
18		ヒメムカシヨモギ		(2)
19		キクイモ		(2)
20		セイタカアワダチソウ		(1)
21		ヒメジョオン		(2)
22		セイヨウタンポポ		(2)
23	オオオナモミ		(2)	
24	イネ	シナダレスズメガヤ		(4)
25		オニウシノケグサ		(4)
26	カヤツリグサ	メリケンガヤツリ		(2)

*植栽種

注)

1. 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により、特定外来生物に指定されている生物
2. 「要注意外来生物リスト」に記載されている生物
 - (1) 被害に係る一定の知見があり、引き続き指定の適否について検討する外来生物
 - (2) 被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物
 - (3) 選定の対象とならないが注意喚起が必要な外来生物（他法令の規制対象種）
 - (4) 別途総合的な取組みを進める外来生物（緑化植物）

特定外来生物

○アレチウリ (*Sicyos angulatus*) [ウリ科] 夏緑性の1年草



原産：北アメリカ

つるの長さ：数～十数 m

花期：8～10月 果期：8～10月

特徴：生育速度が非常に速いつる性植物で、群生することが多い。果実に鋭い棘を密生する。温帯～熱帯に分布し、林縁、荒地、河岸、河川敷、路傍、原野、畑地、樹園地、造林地などに生育する。日当たりの良い場所を好む。土壌環境に対する適応性は大きい。腐食質の多い沖積地を好むため、有機質の多い汚染河川岸に非常に多い。焼却炉やゴミ集積地付近にも多くみられる。輸入大豆に種子が混入して渡来したと言われる。

○オオカワヂシャ (*Veronica anagallis-aquatica*) [ゴマノハグサ科] 夏緑性の1年草



原産：ヨーロッパ～アジア北部

高さ：30～100cm

花期：4～9月

特徴：湿地に生育する。温帯～熱帯に分布し、近年多摩川、荒川、利根川などの水系に広く多量に帰化しており、環境省レッドリストで準絶滅危惧種に指定されている近縁種のカワヂシャとの雑種も報告されており、在来種の遺伝的攪乱が生じている。

○オオキンケイギク (*Coreopsis lanceolata*) [キク科] 夏緑性の多年草



原産：北アメリカ

高さ：30～70cm

花期：5～7月

特徴：温帯に分布し、海岸や路傍に生える。明治の中頃に渡来し観賞用に栽培された。強健で冬期のグラウンドカバー効果が高く、花枯姿が汚くないなどの理由で、ワイルドフラワー緑化で最も多く使われ、道路の法面緑化等に近年大量に使用されるようになった。

要注意外来生物

○ハリエンジュ (*Robinia pseudoacacia*) [マメ科] 落葉性の高木

原産：アメリカ合衆国東南部

高さ：大きいもので25m

花期：4～6月 果期：10月

特徴：市街地や、海岸から低山地までの荒れ地、土手、野原などに生育し、しばしば群生する。

○ムラサキカタバミ (*Oxalis corymbosa*) [カタバミ科] 夏緑性の多年草

原産：南アメリカ

高さ：約30cm

花期：2～11月 果期：結実しない（鱗茎による栄養繁殖のみ）

特徴：庭の空き地、畑、道端に群生する。観賞植物として渡来。

○メマツヨイグサ (*Oenothera biennis*) [アカバナ科] 常緑性の2年草

原産：アメリカ合衆国中部～大西洋岸

高さ：30～200cm

花期：6～10月

特徴：開けた攪乱された場所に生育する。ロゼットをつくる。

○コマツヨイグサ (*Oenothera laciniata*) [アカバナ科] 常緑性の2年草

原産：北アメリカ東部

高さ：5～50cm

花期：4～11月

特徴：攪乱された場所や沿岸の開けた砂地に生育する。

○トウネズミモチ (*Ligustrum lucidum*) [モクセイ科] 常緑性の高木

※詳細は25ページ参照

○オオフトバムグラ (*Diodia teres*) [アカネ科] 夏緑性の1年草

※詳細は25ページ参照

○アメリカネナシカズラ (*Cuscuta pentagona*) [ヒルガオ科] 夏緑性の1年草

原産：北アメリカ

つるの長さ：50cm

花期：8～10月

特徴：つる性の寄生植物。全体は黄褐色。宿主を選ばず、種々の草に寄生する。

○ワルナスビ (*Solanum carolinense*) [ナス科] 夏緑性の多年草

原産：北アメリカ

高さ：30～70m

花期：6～9月 果期：11～12月

特徴：荒地や路傍に生育する。

○ヤセウツボ (*Orobanche minor*) [ハマウツボ科] 夏緑性の1年草

原産：ヨーロッパ

高さ：15～50cm

花期：4～5月

特徴：寄生性で葉緑素を欠き、土手や公園の芝生などに生える。マメ科のシロツメクサに多く寄生する。

○ヘラオオバコ (*Plantago lanceolata*) [オオバコ科] 常緑性の多年草

原産：ヨーロッパ

高さ：70cmに達する

花期：5～8月

特徴：川原、草原などの陽地に生育する。太い根茎がある。

○ブタクサ (*Ambrosia artemisiifolia var. elatior*) [キク科] 夏緑性の1年草

原産：北アメリカ

高さ：30～120cm

花期：7月下旬～10月 果期：9～10月

特徴：空き地や裸地、河川敷に群生する。やや乾いた空き地や路傍に生育する。

○オオブタクサ (*Ambrosia trifida*) [キク科] 夏緑性の1年草

原産：北アメリカ

高さ：1～3m (4mを超えることもある)

花期：7～9月 果期：9～10月

特徴：空き地や河川敷のやや湿り気のある所に群生する。

○アメリカセンダングサ (*Bidens frondosa*) [キク科] 夏緑性の1年草

原産：北アメリカ

高さ：1～1.5m

花期：9～10月 果期：10～11月

特徴：湿った草地や川岸、休耕田などに生育する。瘦果（果実）には刺があり、動物に付着して運ばれる。

○オオアレチノギク (*Conyza sumatrensis*) [キク科] 常緑性の1~2年草

原産：南アメリカ

高さ：80~180cm

花期：8~10月

特徴：道端、荒地などに生育する。ロゼットで冬を越す。現在では世界の暖帯~熱帯に広く分布している。

○ヒメムカシヨモギ (*Erigeron canadensis*) [キク科] 常緑性の1~2年草

※詳細は25ページ参照

○キクイモ (*Helianthus tuberosus*) [キク科] 夏緑性の多年草

原産：北アメリカ

高さ：1~3m

花期：8~11月

特徴：空き地、土手、草原に群生し、地下には横に走る根の先に根茎がつく。

○セイタカアワダチソウ (*Solidago altissima*) [キク科] 常緑性の多年草

原産：北アメリカ

高さ：50~250cm

花期：10~11月 果期：10~12月上旬

特徴：道端、空き地、河川敷などに生育する。長い地下茎で盛んに栄養繁殖する。

○ヒメジョオン (*Stenactis annuus*) [キク科] 冬緑性の1~2年草

※詳細は26ページ参照

○セイヨウタンポポ (*Taraxacum officinale*) [キク科] 常緑性の多年草

原産：ヨーロッパ

高さ：10~40cm

花期：3~5月が最盛期だが、ほぼ年中花をつける

特徴：市街地から里山の道端、高山の駐車場まで荒地に普通に生育する。

○オオオナモミ (*Xanthium occidentale*) [キク科] 夏緑性の1年草

原産：メキシコ

高さ：50~200cm

花期：9~12月

特徴：野原や市街地の空き地、河川敷、路傍に生育する。

○シナダレスズメガヤ (*Eragrostis curvula*) [イネ科] 夏緑性の多年草

原産：南アフリカ

高さ：60～120cm

花期：8～10月

特徴：路傍や道路ののり面に生育する。

○オニウシノケグサ (*Festuca arundinacea*) [イネ科] 常緑性の多年草

原産：ヨーロッパ～西アジア

高さ：45～150cm

花期：6～8月

特徴：荒地や路傍に生育する。

○メリケンガヤツリ (*Cyperus eragrostis*) [カヤツリグサ科] 夏緑性の多年草

原産：熱帯アメリカ

高さ：30～100cm

花期：6～9月

特徴：河川や溝などの水辺に生育する。

(2)植生図

調査範囲の群落別面積を表 2.9に、植生図を図 2.1～図 2.3に示す。

群落別の面積をみると、面積比率の大きい「人工裸地・グラウンド等」、「荒地雑草群落」、「路傍雑草群落」等は公園の敷地であり、それらを除いた自然植生群落はそのほとんどがヨシ群落であった。一部に抽水植物群落であるエゾウキヤガラ群落やガマ群落、アイアシ群集やイ群落が見られた。

なお、エゾウキヤガラ群落やアイアシ群落は塩沼湿地群落であり、河口域の環境に特徴的な群落である。

表 2.9 群落別面積

群落名	面積(m ²)
人工裸地・グラウンド等	381,211
ヨシ群落	150,253
荒地雑草群落	121,781
路傍雑草群落	48,466
河畔緑地	26,460
シバ草地	16,173
公園緑地(樹林帯)	8,694
河畔緑地(トウネズミモチ等)	4,141
エゾウキヤガラ群落	2,657
ガマ群落	2,646
アイアシ群集	1,695
イ群落	350
合計	764,526

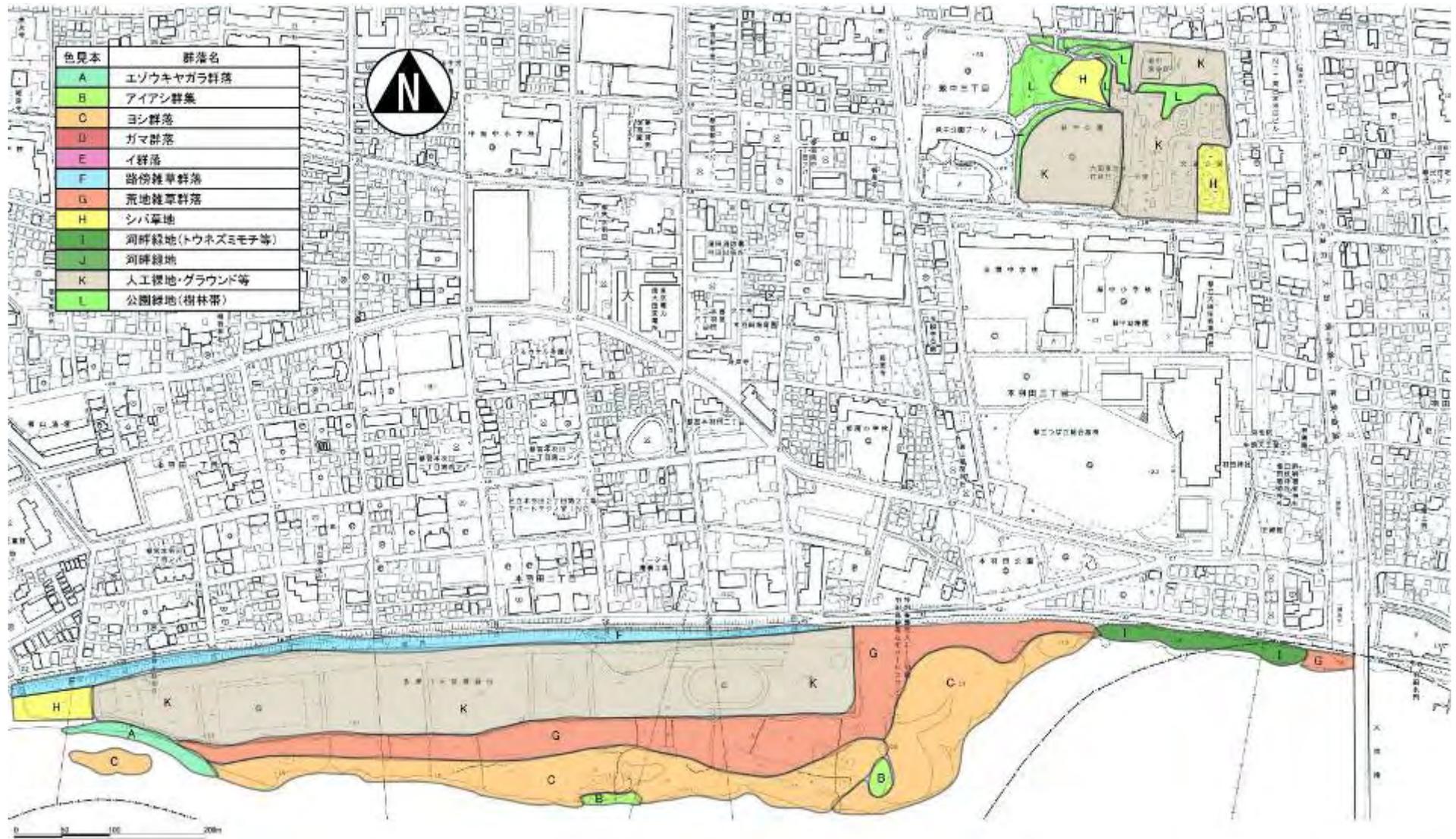


図 2.1 植生図その1

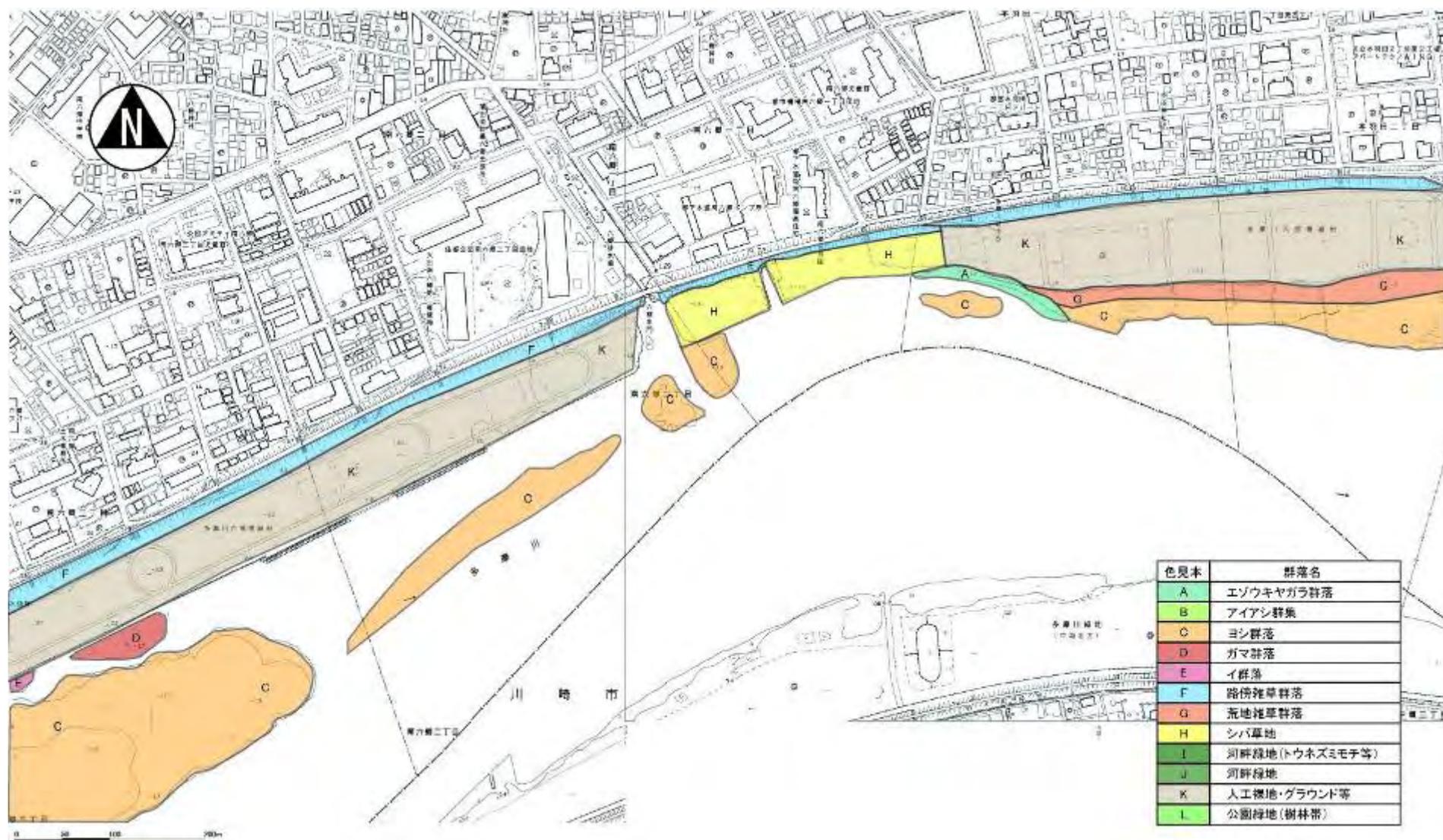


図 2.2 植生図その 2

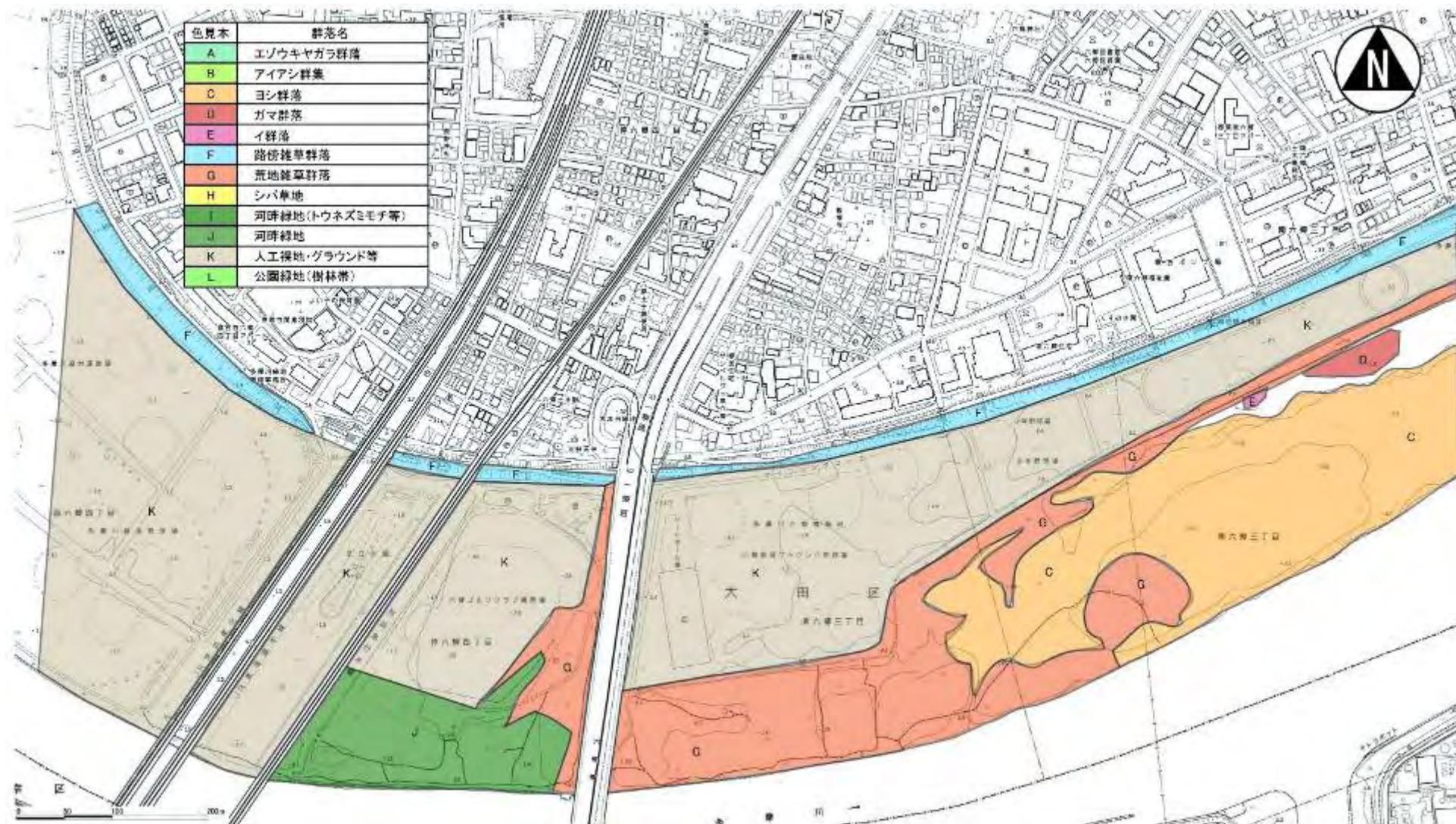


図 2.3 植生図その 3

2.2 昆虫類調査

2.2.1 調査実施日

昆虫類調査の調査実施日を表 2.10に示す。調査は各季節 1 回、計 4 回実施した。

表 2.10 昆虫類調査実施日

季節	実施日
春季	平成 21 年 6 月 20 日
夏季	平成 21 年 8 月 22 日
秋季	平成 21 年 11 月 29 日
冬季	平成 22 年 2 月 6 日

2.2.2 調査結果

(1)結果概要

昆虫類調査結果の分類群別概要を表 2.11に示す。また、全確認種を表 2.12 (1)～(4)に示す。

昆虫類調査で確認された種は、4季合わせて11目77科131種であった。分類群別にみると、最も多く確認された分類群はチョウ目で8科21種が確認された。次いで多かったのは16科19種が確認されたハエ目であった。

季節別に確認種数が最も多かったのは、76種が確認された夏季であった。また地点別では、52種が確認された萩中公園が最も多く、次いで移行帯上流部、移行帯下流部と続いた。

調査地区別の優占種は、公園のうち萩中公園では、ツマグロバッターやアブラゼミなど、大師橋緑地及び六郷橋緑地ではショウリョウバッタやモンキチョウなどであった。樹林帯ではショウリョウバッタ、移行帯ではトビイロハゴロモ、ツマグロオオヨコバイなどが多く確認された。以下にこれらの種の概要を述べる。

表 2.11 昆虫類調査結果

番号	目名	調査全体		地点別																											
				季節別				公園												樹林帯				移行帯							
								萩中公園				大師橋緑地				六郷橋緑地				樹林帯				下流部		上流部					
科数	種数	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬						
1	クモ	11	18	6	11		5	4	6										2	2				1		1	4	5			
2	トビムシ	2	2		1		2													1						2					
3	トンボ	3	4	2	3			1								1							1	3			1				
4	カマキリ	1	3	1	1	1	2												1							1	1	1			
5	ハサミムシ	2	3	2			1	1											1							1					
6	バッタ	9	13	2	12	2			3			1				3			1	3	2		1	7	1	1	5	1			
7	カメムシ	11	15	6	13		1	3	5							2				3			3	5		1	2	5			
8	チョウ	8	21	15	13	2	1	7	4			2	1			3	7		3	1			2	5	1	1	1	6	1	1	
9	ハエ	16	19	15	6	1	2	8	3			1							4	2			3			2	5	3	1		
10	コウチュウ	6	16	10	6	1	2	1	1			2				1	2			1			1	3		2	6	2	1		
11	ハチ	8	17	11	10		1	6	7			1	1						2	2						1	2	2			
合計		77	131	70	76	7	17	31	29	0	0	6	3	0	0	4	15	0	0	14	15	2	0	12	27	2	11	18	29	5	7
				131				52				9				18				29				48				50			

表 2.12 (1) 昆虫類調査結果 (確認全種) その1

調査年月日：春季 平成21年6月20日
 夏季 平成21年8月22日
 秋季 平成21年11月29日
 冬季 平成22年2月6日
 調査方法：目視調査・任意採集調査

番号	目名	科名	種名	環境省 RL	東京都 RDB (東部)	公園																
						萩中公園				大師橋緑地				六郷橋緑地								
						春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬					
1	クモ	ヒメグモ	カグヤヒメグモ			●																
2			シロカネイソウロウグモ				●															
3			ギボシヒメグモ			●																
4		アシナガグモ	チビシロカネグモ																			
5			ジョロウグモ				●															
6		コガネグモ	ナガコガネグモ																			
7			クマダギンナガゴミグモ			●																
8		コモリグモ	ウツキコモリグモ																			
9		ササグモ	ササグモ																			
10		タナグモ	クサグモ																			
11			コクサグモ			●	●															
12		ハグモ	ネコハグモ				●															
13		ガケジグモ	ガケジグモ科の一種																			
14		フクログモ	カバキコマチグモ																			
15			ヒメフクログモ																			
16		カニグモ	ハナグモ																			
17		ハエトリグモ	ヤサアリグモ				●															
18			シラホシコゲチャハエトリ																			
19	トビムシ	アヤトビムシ	アヤトビムシ科の一種																			
20		トゲトビムシ	トゲトビムシ科の一種																			
21	トンボ	イトトンボ	アオモンイトトンボ		C																	
22		ヤンマ	クロスジギンヤンマ		C																	
23		トンボ	シオカラトンボ			●																
24			アキアカネ																		●	
25	カマキリ	カマキリ	コカマキリ																			
26			チョウセンカマキリ																			
27			オオカマキリ																			
28	ハサミムシ	マルムネハサミムシ	ハマベハサミムシ																			
29			ヒゲジロハサミムシ																			
30		オオハサミムシ	オオハサミムシ			●																
31	バッタ	キリギリス	ハタケノウマオイ																			
32		ケラ	ケラ																		●	
33		マツムシ	カンタン																			
34		コオロギ	エンマコオロギ																			
35			ツツレリセコオロギ																			
36		カナタタキ	カナタタキ				●															
37		バッタ	ショウリョウバッタ																			
38			ヒナバッタ				●															
39			ツマグロバッタ				★															
40		イナゴ	ハネナガイナゴ																			
41			コバネイナゴ																			
42		オンブバッタ	オンブバッタ																		●	
43		ヒシバッタ	ハネナガヒシバッタ																			
44	カメムシ	アオバハゴロモ	トビイロハゴロモ																			
45		セミ	クマゼミ		C		●															
46			アブラゼミ				★															
47			ツクツクボウシ				●															
48			ミンミンゼミ				●															
49		アワフキムシ	ハマベアワフキ																			
50		ヨコバイ	ツマグロオオヨコバイ																			
51		アブラムシ	セイトカアワダチソウヒゲナガアブラムシ			●																
52		ワタフキカイガラムシ	イセリアカイガラムシ				●															
53		ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ																			
54		ヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ																			
55		ナガカメムシ	ヒメナガカメムシ			●																
56		カメムシ	ナガメ			●																
57			クサギカメムシ																		●	
58		マルカメムシ	マルカメムシ																			●
59	チョウ	セセリチョウ	イチモンジセセリ																			●
60		シジミチョウ	ウラギンシジミ				●															●
61			ツバメシジミ				●															●
62			ウラナミシジミ																			●
63			ベニシジミ																		●	●
64			ムラサキシジミ				●															●
65			ヤマトシジミ本土亜種				●	●														●

表 2.12 (3) 昆虫類調査結果 (確認全種) その 3

調査年月日：春季 平成 21 年 6 月 20 日
 夏季 平成 21 年 8 月 22 日
 秋季 平成 21 年 11 月 29 日
 冬季 平成 22 年 2 月 6 日
 調査方法：目視調査・任意採集調査

番号	目名	科名	種名	環境省 RL	東京都 RDB (東部)	樹林帯		移行帯												
						春	夏	秋	冬	下流部				上流部						
										春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬			
1	クモ	ヒメグモ	カグヤヒメグモ																	
2			シロカネインソウロウグモ																	
3			ギボシヒメグモ																	
4		アシナガグモ	チビシロカネグモ																	
5			ジョロウグモ																	
6		コガネグモ	ナガコガネグモ																	
7			クマダギンナガゴミグモ																	
8		コモリグモ	ウツキコモリグモ																	
9		ササグモ	ササグモ																	
10		タナグモ	クサグモ																	
11			コクサグモ																	
12		ハグモ	ネコハグモ																	
13		ガケジグモ	ガケジグモ科の一種																	
14		フクログモ	カバキコマチグモ																	
15			ヒメフクログモ																	
16		カニグモ	ハナグモ																	
17		ハエトリグモ	ヤサアリグモ																	
18			シラホシコゲチャハエトリ																	
19	トビムシ	アヤトビムシ	アヤトビムシ科の一種																	
20		トゲトビムシ	トゲトビムシ科の一種																	
21	トンボ	イトトンボ	アオモンイトトンボ		C															
22		ヤンマ	クロスジギンヤンマ		C															
23		トンボ	シオカラトンボ																	
24			アキアカネ																	
25	カマキリ	カマキリ	コカマキリ																	
26			チョウセンカマキリ																	
27			オオカマキリ																	
28	ハサミムシ	マルムネハサミムシ	ハマベハサミムシ																	
29			ヒゲジロハリミムシ																	
30		オオハサミムシ	オオハサミムシ																	
31	バッタ	キリギリス	ハタケノウマオイ																	
32		ケラ	ケラ																	
33		マツムシ	カンタン																	
34		コオロギ	エンマコオロギ																	
35			ツツレサセコオロギ																	
36		カナタタキ	カナタタキ																	
37		バッタ	ショウリヨウバッタ																	
38			ヒナバッタ																	
39			ツマグロバッタ																	
40		イナゴ	ハネナガイナゴ																	
41			コバネイナゴ																	
42		オンブバッタ	オンブバッタ																	
43		ヒシバッタ	ハネナガヒシバッタ																	
44	カメムシ	アオバハゴロモ	トビイロハゴロモ																	
45		セミ	クマゼミ		C															
46			アブラゼミ																	
47			ツクツクボウシ																	
48			ミンミンゼミ																	
49		アワフキムシ	ハマベアワフキ																	
50		ヨコバイ	ツマグロオオヨコバイ																	
51		アブラムシ	セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ																	
52		ワタフキカイガラムシ	イセリアカイガラムシ																	
53		ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ																	
54		ヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ																	
55		ナガカメムシ	ヒメナガカメムシ																	
56		カメムシ	ナガメ																	
57			クサギカメムシ																	
58		マルカメムシ	マルカメムシ																	
59	チョウ	セセリチョウ	イチモンジセセリ																	
60		シジミチョウ	ウラギンシジミ																	
61			ツバメシジミ																	
62			ウラナシシジミ																	
63			ベニシジミ																	
64			ムラサキシジミ																	
65			ヤマトシジミ本土亜種																	

表 2.12 (4) 昆虫類調査結果 (確認全種) その 4

調査年月日：春季 平成 21 年 6 月 20 日
 夏季 平成 21 年 8 月 22 日
 秋季 平成 21 年 11 月 29 日
 冬季 平成 22 年 2 月 6 日
 調査方法：目視調査・任意採集調査

番号	目名	科名	種名	環境省 RL	東京都 ROB (東部)	移行帯																	
						樹林帯				下流部				上流部									
						春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬						
66	チョウ	タテハチョウ	ツマグロヒョウモン																				
67			ゴマダラチョウ			●						●											
68		アゲハチョウ	アオスジアゲハ																				
69			ナミアゲハ																				
70		シロチョウ	モンキチョウ																				
71			キタキチョウ			●						●										●	
72			スジグロシロチョウ			●																	
73			モンシロチョウ									●	●									●	
74		ツトガ	Diasemia属の一種									●	●									●	
75			ワモンノメイガ																				●
76			シロオビノメイガ																				●
77		シャクガ	セスジナミシャク																				
78		ヤガ	スジキリヨトウ																				
79			ヨトウガ亜科の一種																				●
80	ハエ	ガガンボ	キイロホソガガンボ																				
81		チョウバエ	チョウバエ科の一種																				
82		ユスリカ	ユスリカ科の一種																				
83		カ	ヒトスジシマカ			●																	
84		ミズアブ	エソホソリミズアブ			●																	
85		ムシヒキアブ	ナミマガリケムシヒキ																				
86			シオヤアブ																				●
87		ツリアブ	クロバナツリアブ																				●
88		アシナガバエ	アシナガキンバエ			●																	●
89		ハナアブ	ヒメヒラタアブ																				●
90		ショウジョウバエ	ショウジョウバエ科の一種																				
91		ツヤホソバエ	ヒトテンツヤホソバエ																				●
92		フンコバエ	フンコバエ科の一種																				●
93		クロバエ	ケバククロバエ																				●
94			キンバエ																				●
95			クロバエ科の一種																				●
96		ニクバエ	センチニクバエ			●																	●
97		フンバエ	ヒメフンバエ																				●
98		-	ハエ目の一種																				●
99	コウチュウ	ハンミョウ	トウキョウヒメハンミョウ																				●
100		コガネムシ	アオドウガネ																				●
101			ツヤコガネ																				●
102			セマダラコガネ																				●
103			マメコガネ																				●
104			シロテンハナムグリ																				●
105		テントウムシ	ナナホシテントウ																				●
106			ナミテントウ																				●
107			ヒメカメノコテントウ																				●
108		カミキリムシ	ゴマダラカミキリ																				●
109			キボシカミキリ																				●
110		ハムシ	ウリハムシモドキ																				●
111			ウリハムシ																				●
112			チャイロサルハムシ																				●
113			ブタクサハムシ																				●
114		ゾウムシ	サビヒョウタンゾウムシ																				●
115	ハチ	ミフシハバチ	ルリチュウレンジ																				●
116			ミフシハバチ科の一種																				●
117		ハバチ	ハバチ科の一種																				●
118		アリ	アシナガアリ																				●
119			キイロシリアゲアリ																				●
120			テラニシシリアゲアリ																				●
121			クロヤマアリ																				●
122			キイロケアリ																				●
123			トビイロケアリ																				●
124			トビイロシワアリ																				●
125		スズメバチ	フタモンアシナガバチ			●																	●
126			セグロアシナガバチ			●																	●
127		ベッコウバチ	オオモンクロベッコウ																				●
128		アリバチ	アリバチ科の一種																				●
129		ツチバチ	ヒメハラナガツチバチ																				●
130		ミツバチ	ニホンミツバチ																				●
131			キムネクマバチ																				●
合計	11目	77科																					
						14	15	2	0	12	27	2	11	18	29	5	7						

※1 凡例：● 確認種
 ★ 優占種

優占種

○ショウリョウバッタ (*Acrida cinerea*) [バッタ科]



分布：本州、四国、九州

体長：雄 45mm、雌 75mm

成虫期：7～10月

特徴：草原に普通に見られる。

○ツマグロバッタ (*Stethophyma magister*) [バッタ科]



分布：本州

体長：30～40mm

成虫期：7～8月

特徴：水田や湿った草地に生息する。

○トビイロハゴロモ (*Mimophantia maritima*) [アオバハゴロモ科]



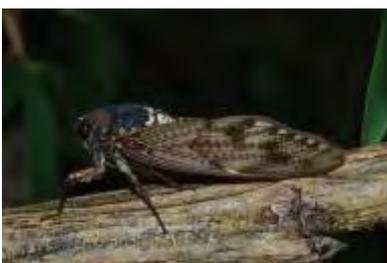
分布：本州、四国、九州、屋久島、対馬

体長：4～5mm

成虫期：8～10月

特徴：平地や海岸地帯のイネ科の雑草で多く見られる。

○アブラゼミ (*Graptopsaltria nigrofuscata*) [セミ科]



分布：北海道、本州、四国、九州、対馬

体長：32～40mm

成虫期：7～9月

特徴：各地のいたる所で最も普通に見られ、騒々しく鳴く。

○ツマグロオオヨコバイ (*Bothrogonia ferruginea*) [ヨコバイ科]



分布：本州、四国、九州、対馬

体長：13mm

成虫期：8月～（成虫越冬）

特徴：低山地の樹林内に普通で各種の植物上で見られる。

○モンキチョウ (*Colias erate poliographus*) [シロチョウ科]



分布：全国各地

体長：18～27mm

成虫期：3～11月

特徴：低地から山地の明るい環境、耕作地周辺などの人為的環境で多く見られる。

(2)重要種

昆虫類調査で確認された重要種とその選定根拠を表 2.13に、確認地点を表 2.14に示す。

昆虫類調査で確認された重要種は、東京都 RDB で C ランクに指定されているアオモンイトトンボ、クロスジギンヤンマ及びクマゼミの3種であった。

地点別にみると、重要種が確認された地点は2地点であり、萩中公園では夏季にクマゼミが、移行帯下流部では春季にアオモンイトトンボ、夏季にクロスジギンヤンマが確認された。

以下に重要種の概要を述べる。

表 2.13 重要種の選定根拠（昆虫類）

番号	科名	種名	選定根拠			
			1	2	3	4
1	イトトンボ	アオモンイトトンボ				C
2	ヤンマ	クロスジギンヤンマ				C
3	セミ	クマゼミ				C

注)

1. 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）に基づき指定される天然記念物及び特別天然記念物。または、都道府県及び市町村が条例により指定する天然記念物
2. 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）に基づき指定される国内希少動植物種
3. 「環境省レッドリスト 昆虫類（環境省：2007）」及び「環境省レッドリスト クモ形類多足類等（環境省：2006）」に記載された種
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
4. 「東京都の保護上重要な野生生物種－1998年版－（東京都環境保全局）」に記載された種（区部）
 - A 絶滅の危機に瀕している種
環境庁RDBの「絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅰ類）」に相当する種
 - B 絶滅の危機が増大している種
環境庁RDBの「危急種（絶滅危惧Ⅱ類）」に相当する種
 - C 生息環境の変化によりAランクやBランクへの移行が危惧される種
環境庁RDBの「希少種（準絶滅危惧）」に相当する種
 - D 野生で絶滅と判断される種 ・ ここ50年程観察例のない種
 - E p 生息域が限定されていたり孤立しており、地域レベルで考慮すると絶滅の危機が増大している種（地域限定種）

2.3 鳥類調査

2.3.1 調査実施日

鳥類調査の調査実施日を表 2.15に示す。調査は各季節1回、計4回実施した。

表 2.15 鳥類調査実施日

季節	実施日
春季	平成21年6月28日
夏季	平成21年8月29日
秋季	平成21年11月23日
冬季	平成22年2月7日

2.3.2 調査結果

(1)結果概要

鳥類調査結果を表 2.16に示す。

鳥類調査で確認された種は、4季合わせて12目26科58種であった。

季節別に確認種数が最も多かったのは、38種が確認された冬季であった。また地点別では、29種が確認された干潟植生有（上流部）が最も多く、次いで干潟植生無（上流部）、干潟植生無（下流部）と続いた。

調査地区別の優占種は、公園のうち萩中公園ではキジバト、ヒヨドリ、スズメ、オナガ、ハシボソガラスなど、大師橋緑地及び六郷橋緑地ではカルガモ、オナガガモ、オオバン、ツグミ、ムクドリなどであった。樹林帯ではヒヨドリ、カワラヒワ、移行帯ではハクセキレイ、オオヨシキリなどであり、干潟植生有ではカルガモ、コガモ、オオヨシキリなど、干潟植生無ではカワウ、カルガモ、ウミネコなどが多く確認された。以下にこれらの種の概要を述べる。

優占種

○カワウ (*Phalacrocorax carbo*) [ウ科]



分布：全国各地

見られる時期：一年中

全長：81cm

繁殖期：4～7月

特徴：内陸の淡水、河川、湖沼に生息し、その近くの林で集団繁殖する。潜水して魚類や甲殻類を捕らえて食べる。

○カルガモ (*Anas poecilorhyncha*) [カモ科]



分布：全国各地

見られる時期：一年中

全長：60cm

繁殖期：4～7月

特徴：淡水域から海水域まで広く見られ、雑食性で草の葉、茎、種子などが主要食である。

○コガモ (*Anas crecca*) [カモ科]



分布：全国各地

見られる時期：冬季

全長：60cm

繁殖期：5～7月

特徴：河川、湖沼などの淡水域に多く、ヨシなどが生える岸辺近くの水草の間にいることも多い。雑食性で草の葉、茎、種子などが主要食である。

○オナガガモ (*Anas acuta*) [カモ科]



分布：全国各地

見られる時期：冬季

全長：75cm

繁殖期：5～7月

特徴：河川、湖沼、干潟、内湾、水田などで見られ、繁殖は低地の開けた浅い池の多い湿地で行う。雑食性で水草の種子や水生昆虫などを食べる。

○ウミネコ (*Larus crassirostris*) [カモメ科]



分布：日本各地

見られる時期：一年中

全長：46cm

繁殖期：4～7月

特徴：海岸、河口、海上で周年見ることができる。小型の魚、甲殻類、動物の死体などを食べる。漁船に群がりおこぼれを拾う姿がよく見られる。

○オオバン (*Fulica atra*) [クイナ科]



分布：全国各地

見られる時期：一年中

全長：39cm

繁殖期：4～8月

特徴：湖沼、河川、水田、ハス田などのヨシやガマが生育する湿地に生育する。水草の葉、種子、昆虫、甲殻類などを食べる。

○キジバト (*Streptopelia orientalis*) [ハト科]



分布：日本各地

見られる時期：一年中

全長：33cm

繁殖期：3～11月

特徴：低地から亜高山帯までの農耕地、原生林などで幅広く見られる。地上に降りて歩行しながら落ちている種子、果実などを食べる。

○ハクセキレイ (*Motacilla alba*) [セキレイ科]



分布：日本各地

見られる時期：一年中

全長：21cm

繁殖期：5～7月

特徴：低地の海岸地方、河川、湖沼などの水辺を中心に、その周辺の水田、集落、市街地などに生息する。種として昆虫食で、水辺で採食する他、フライングキャッチもする。

○ヒヨドリ (*Pycnonotus sinensis*) [ヒヨドリ科]



分布：日本各地

見られる時期：一年中

全長：27cm

繁殖期：5～7月

特徴：低地や低山帯の雑木林、マツ林、落葉広葉樹林などいろいろなタイプの樹林に生息する。公園の樹木などでも繁殖する。夏は主として昆虫を食べ、冬は果実や種子を食べる。

○ツグミ (*Turdus naumanni*) [ツグミ科]



分布：日本各地

見られる時期：冬季

全長：24cm

繁殖期：6～9月

特徴：低地から山地の林や農耕地、公園の芝生、川原、干潟などいろいろな環境に広く生息する。地上を歩きながらミミズや昆虫を捕らえて食べるほか、果実も食べる。

○オオヨシキリ (*Acrocephalus arundinaceus*) [ウグイス科]



分布：本州以南

見られる時期：夏季

全長：18cm

繁殖期：5～8月

特徴：水辺のヨシ原に生息し、海岸や河口の湿原や、山地の湖岸や川岸の湿地で繁殖する。昆虫やクモ類を食べる。

○カワラヒワ (*Carduelis sinica*) [アトリ科]



分布：北海道～九州

見られる時期：一年中

全長：14cm

繁殖期：3～7月

特徴：人家周辺、農耕地、雑木林、川原に生息する。四季を通じて植物の種子だけを食べる。

○スズメ (*Passer montanus*) [ハタオリドリ科]



分布：日本各地

見られる時期：一年中

全長：15cm

繁殖期：2～9月

特徴：人家とその周辺の樹林、農耕地、草地、川原に生息する。

深い森林の奥には入らず、農耕地のない人家や、人が住んでいない廃村にもいない。人の生活に密着している。

主として種子食だが、小型の昆虫、クモ類も食べる。

○ムクドリ (*Sturnus cineraceus*) [ムクドリ科]



分布：日本各地

見られる時期：一年中

全長：24cm

繁殖期：3月下旬～7月

特徴：農耕地、公園、牧場など、乾燥して開けた場所を好んで生息する。雑食性で、ミミズ、昆虫、種子、果実などを食べる。

○オナガ (*Cyanopica cyana*) [カラス科]



分布：中部地方以北の本州

見られる時期：一年中

全長：37cm

繁殖期：5～8月

特徴：低地や低山帯の果樹園、村落周辺の雑木林、樹木の多い市街地や果樹園に生息する。雑食性で、昆虫や果実を食べる。また鳥の卵、雛も食べる。

○ハシボソガラス (*Corvus corone*) [カラス科]



分布：日本各地

見られる時期：一年中

全長：50cm

繁殖期：3～6月

特徴：低地や低山帯の集落、農耕地、河川敷、市街地、雑木林などに生息する。雑食性で、昆虫を始め、人間の出したゴミ、動物の死体、鳥の卵、雛などを食べる。

(2)重要種

鳥類調査で確認された重要種とその選定根拠を表 2.17に、確認地点を表 2.18に示す。

鳥類調査で確認された重要種は、環境省 RL で VU（絶滅危惧Ⅱ類）に指定されているコアジサシ、アカアシシギ及びセイタカシギ等 8 種であった。

地点別にみると、重要種が確認された地点は 8 地点であり、最も多く確認された地点は 4 種が確認された干潟植生無（上流部）であった。

以下に重要種の概要を述べる。

表 2.17 重要種の選定根拠（鳥類）

番号	科名	種名	選定根拠			
			1	2	3	4
1	カイツブリ	カンムリカイツブリ				C
2	サギ	ダイサギ				C
3	タカ	トビ				C
4	ハヤブサ	チヨウゲンボウ				C
5	カモメ	コアジサシ			VU	C
6	シギ	アカアシシギ			VU	
7		セイタカシギ			VU	C
8	ウグイス	ウグイス				C

注)

1. 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）に基づき指定される天然記念物及び特別天然記念物。または、都道府県及び市町村が条例により指定する天然記念物
2. 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）に基づき指定される国内希少動植物種
3. 「環境省レッドリスト 鳥類(環境省：2006)」に記載された種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
4. 「東京都の保護上重要な野生生物種－1998年版－（東京都環境保全局）」に記載された種（区部）
 - A 絶滅の危機に瀕している種
環境庁RDBの「絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅰ類）」に相当する種
 - B 絶滅の危機が増大している種
環境庁RDBの「危急種（絶滅危惧Ⅱ類）」に相当する種
 - C 生息環境の変化によりAランクやBランクへの移行が危惧される種
環境庁RDBの「希少種（準絶滅危惧）」に相当する種
 - D 野生で絶滅と判断される種・ここ50年程観察例のない種
 - E_p 生息域が限定されていたり孤立しており、地域レベルで考慮すると絶滅の危機が増大している種（地域限定種）

○カンムリカイツブリ (*Podiceps cristatus*) [カイツブリ科]



分布：全国各地

見られる時期：冬季

全長：56cm

繁殖期：3～8月

特徴：海岸や、海岸近くの淡水湖沼や大きな川に多く、魚類を好んで食べるが、甲殻類、昆虫、イモリやオタマジャクシなども食べる。

○ダイサギ (*Egretta alba*) [サギ科]



分布：全国各地

見られる時期：夏季

全長：85cm

繁殖期：4～9月

特徴：平地にある雑木林にコロニーを作る。見通しの良い水田、沼沢、干潟などを採食地とし、魚類、両生類、甲殻類、昆虫、小型哺乳類などを食べる。

○トビ (*Milvus migrans*) [タカ科]



分布：九州以北

見られる時期：一年中

全長：69cm

繁殖期：2～9月

特徴：海岸、農耕地、河川、湖沼の周辺に生息する。地上や水面に餌を見つけると急降下して脚でさらう。主に死肉を食べるが、ネズミ、カエルなどの生きている小動物も食べる。

○チョウゲンボウ (*Falco tinnunculus*) [ハヤブサ科]



分布：全国各地

見られる時期：一年中

全長：38cm

繁殖期：4～7月

特徴：低地、低山帯から高山帯にかけて幅広く現れる。草原、農耕地河川敷など開けたところに生息し、主にネズミ類を食べる。巣は崖の洞穴やカラス等他の鳥の古巣を作る。

○コアジサシ (*Sterna albifrons*) [カモメ科]



分布：本州以南

見られる時期：夏季

全長：25cm

繁殖期：5～7月

特徴：海岸や河原の砂礫地に集団で繁殖する。餌は主に小魚で、水面上から魚を見つけると水中に飛び込んで捕らえる。

○アカアシシギ (*Tringa totanus*) [シギ科]



分布：全国各地

見られる時期：春季及び秋季

全長：28cm

繁殖期：4～6月（国内では北海道東部でのみ繁殖）

特徴：干潟、河口、池沼等の浅く水に浸かる砂泥地を歩きながら水面や泥の表面から餌をついばむ。主に軟体動物や甲殻類、ガガンボの幼虫などを食べる。

○セイタカシギ (*Himantopus himantopus*) [セイタカシギ科]



分布：全国各地

見られる時期：一年中

全長：38cm

繁殖期：5～7月（国内では愛知県や千葉県の一部で繁殖）

特徴：湿地帯、河口、入り江の干潟、水田などに現れる。比較的透明度のよい水域を好み、水生昆虫や甲殻類、小魚やオタマジャクシなどを食べる。

○ウグイス (*Cettia diphone*) [ウグイス科]



分布：全国各地

見られる時期：一年中

全長：15cm

繁殖期：4～8月

特徴：平地から亜高山のササ藪もともなう低木林、林縁などに生息し、秋、冬には平地の藪の中で生活する。藪の中を枝渡りしながら活発に移動し、葉の裏面につく昆虫を下から飛びつくように襲う。冬は熟したリンゴ、カキなどの果実を食べる。大田区の区の鳥に指定されている。

(3)外来種

鳥類調査では（外来生物法で特定外来生物及び要注意外来生物に指定されている種）外来種は確認されなかった。

2.4 哺乳類・爬虫類・両生類調査

2.4.1 調査実施日

哺乳類・爬虫類・両生類調査の調査実施日を表 2.19に示す。調査は各季節 1 回、計 4 回実施した。

表 2.19 哺乳類・爬虫類・両生類調査実施日

季節	実施日
春季	平成 21 年 6 月 20 日
夏季	平成 21 年 8 月 22 日
秋季	平成 21 年 11 月 29 日
冬季	平成 22 年 2 月 6 日

2.4.2 調査結果

(1) 結果概要

哺乳類・爬虫類・両生類調査結果を 表 2.20 に示す。なお、干潟植生無の環境は調査予定範囲に含まれていなかったが、ミシシippアカミミガメが確認されたため結果表に追加した。

哺乳類・爬虫類・両生類調で確認された種は、4 季合わせて 3 綱 5 目 6 科 6 種であった。

季節別に確認種数が最も多かったのは、5 種が確認された春季であった。また地点別では、各地点 1～2 種が確認された。

なお哺乳類・爬虫類・両生類調査では、確認個体数が少なく、特に優占していた種はいなかったが、モグラ類の坑道が大師橋緑地及び六郷橋緑地で多く確認された。

(2)重要種

哺乳類・爬虫類・両生類調査で確認された重要種とその選定根拠を表 2.21に、確認地点を表 2.22に示す。

哺乳類・爬虫類・両生類調査で確認された重要種は、東京都 RDB で B ランクに指定されているアオダイショウであり、春季に移行帯下流部で確認された。

以下に重要種の概要を述べる。

表 2.21 重要種の選定根拠（哺乳類・爬虫類・両生類）

番号	科名	種名	選定根拠			
			1	2	3	4
1	ヘビ	アオダイショウ				B

注)

- 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）に基づき指定される天然記念物及び特別天然記念物。または、都道府県及び市町村が条例により指定する天然記念物
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）に基づき指定される国内希少動植物種
- 「環境省レッドリスト 両生類（環境省：2006）」、「環境省レッドリスト 爬虫類（環境省：2006）」及び「環境省レッドリスト 哺乳類（環境省：2007）」に記載された種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- 「東京都の保護上重要な野生生物種－1998年版－（東京都環境保全局）」に記載された種（区部）
 - A 絶滅の危機に瀕している種
環境庁RDBの「絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅰ類）」に相当する種
 - B 絶滅の危機が増大している種
環境庁RDBの「危急種（絶滅危惧Ⅱ類）」に相当する種
 - C 生息環境の変化によりAランクやBランクへの移行が危惧される種
環境庁RDBの「希少種（準絶滅危惧）」に相当する種
 - D 野生で絶滅と判断される種 ・ ここ50年程観察例のない種
 - E p 生息域が限定されていたり孤立しており、地域レベルで考慮すると絶滅の危機が増大している種（地域限定種）

表 2.22 重要種確認地点（哺乳類・爬虫類・両生類）

番号	種名	公園												樹林帯				移行帯															
		萩中公園				大師橋緑地				六郷橋緑地				樹林帯				下流部				上流部											
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬								
1	アオダイショウ																																
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地点別合計	0				0				0				0				1				0											

○アオダイショウ (*Elaphe climacophora*) [ヘビ科]



分布：北海道、本州、四国、九州

全長：110～200cm

繁殖期：4～9月

特徴：山地の森林から平野部の人家までさまざまな環境に生息する。ネズミや鳥、鳥の卵などを食べる。幼体はカエルやトカゲなども食べる。

(3)外来種

哺乳類・爬虫類・両生類調査で確認された外来種（外来生物法で特定外来生物及び要注意外来生物に指定されている種）を表 2.23に、確認地点を表 2.24に示す。

哺乳類・爬虫類・両生類調査で確認された外来種は、要注意外来生物に指定されているミシシippアカミミガメ 1種であった。

地点別にみると、外来種が確認された地点は干潟植生無（上流部）のみの 1 地点であった。

以下に外来種の概要を述べる。

表 2.23 外来種の選定根拠（哺乳類・爬虫類・両生類）

番号	科名	種名	選定根拠	
			1	2
1	イシガメ	ミシシippアカミミガメ		(1)

注)

1. 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により、特定外来生物に指定されている生物
2. 「要注意外来生物リスト」に記載されている生物
 - (1)被害に係る一定の知見があり、引き続き指定の適否について検討する外来生物
 - (2)被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物
 - (3)選定の対象とならないが注意喚起が必要な外来生物（他法令の規制対象種）
 - (4)別途総合的な取組みを進める外来生物（緑化植物）

表 2.24 外来種確認状況（両生類・爬虫類・哺乳類）

番号	種名	公園												樹林帯						移行帯						干潟植生無							
		萩中公園				大師橋緑地				六郷橋緑地				春			夏			秋			冬			上流部							
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬				
1	ミシシippアカミミガメ																													●	●		
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
地点別合計		0				0				0				0						0			1										

○ミシシippアカミミガメ (*Trachemys scripta*) [イシガメ科]



原産：アメリカ合衆国から南米大陸北西部まで

全長：20～28cm

繁殖期：年数回

特徴：雑食性で、水草の他、魚類、両生類、甲殻類、貝類、水生昆虫や水鳥の死体などを広く食べる。在来種のカメ類と、食物や日光浴場所、産卵・越冬場所が類似し競合する。頑健で汚染にも強く、都市部のきわめて汚れた河川でも生存できる。

2.5 陸産貝類調査

2.5.1 調査実施日

陸産貝類調査の調査実施日を表 2.25に示す。調査は各季節 1 回、計 4 回実施した。

なお、秋季調査は、天候の関係により 12 月 5 日に補足調査を行った。

表 2.25 陸産貝類調査実施日

季節	実施日
春季	平成 21 年 6 月 27 日
夏季	平成 21 年 8 月 22 日
秋季	平成 21 年 11 月 20 日 平成 21 年 12 月 5 日
冬季	平成 22 年 2 月 26 日

2.5.2 調査結果

(1) 結果概要

陸産貝類調査結果を表 2.26 に示す。

陸産貝類調査で確認された種は、4 季合わせて 2 目 12 科 25 種であった。

季節別に確認種数が最も多かったのは、18 種が確認された冬季であった。また地点別では、21 種が確認された移行带上流部が最も多く、次いで移行帯下流部、樹林帯と続いた。

また陸産貝類調査での確認種は、数個体程度の確認がほとんどであり、比較的多くの個体が確認されたのは移行帯のみであった。移行帯で優占していた種は、ミジンマイマイ、チャコウラナメクジ、ウスカワマイマイ、オナジマイマイなどであった。以下にこれらの種の概要を述べる。

優占種

○ミジンマイマイ (*Vallonia costata*) [ミジンマイマイ科]



分布：北海道～九州

殻高：1mm 殻径：2mm

特徴：谷川沿いで落ち葉やネザサなどが多少堆積しているところに生息する。

○チャコウラナメクジ (*Limax marginatus*) [コウラナメクジ科]



分布（原産）：ヨーロッパ

体長：7～8cm

特徴：湿った土壤に普通に見られる。

○ウスカワマイマイ (*Acusta despecta sieboldiana*) [オナジマイマイ科]



分布：本州、四国、九州北部

殻高：21mm 殻径：23mm

特徴：田畑や民家の庭に普通に見られる。

○オナジマイマイ (*Bradybaena similaris*) [オナジマイマイ科]



分布：日本各地

殻高：11.5～13.5mm 殻径：17.5～18.5mm

特徴：公園、河川敷に普通に見られる。

(2)重要種

陸産貝類調査で確認された重要種とその選定根拠を表 2.27に、確認地点を表 2.28に示す。

陸産貝類調査で確認された重要種は、環境省 RL で NT（準絶滅危惧）に指定されているナガオカモノアラガイ及びスナガイの2種であった。

地点別にみると、重要種が確認された地点は4地点であり、各地点で1～2種が確認された。

以下に重要種の概要を述べる。

表 2.27 重要種の選定根拠（陸産貝類）

番号	科名	種名	選定根拠		
			1	2	3
1	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ			NT
2	キバサナギガイ	スナガイ			NT

注)

- 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）に基づき指定される天然記念物及び特別天然記念物。または、都道府県及び市町村が条例により指定する天然記念物
 - 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）に基づき指定される国内希少動植物種
 - 「環境省レッドリスト 陸産貝類・淡水貝類（環境省：2007）」に記載された種
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ※ 「東京都の保護上重要な野生生物種－1998年版－（東京都環境保全局）」には陸産貝類の記載は小笠原諸島のみ

表 2.28 重要種確認地点（陸産貝類）

番号	種名	公園												移行帯																			
		萩中公園				大師橋緑地				六郷橋緑地				樹林帯				下流部				上流部											
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬												
1	ナガオカモノアラガイ									▲					●												▲						
2	スナガイ													●	●	●	●					●	●							●			
季節別種数		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	1	1	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	0				
地点別種数		0				0				1				2				1				2											

※ 結果表の●は生貝、▲は死貝を示す。

○ナガオカモノアラガイ (*Oxyloma hirasei*) [オカモノアラガイ科]



5mm

分布：北海道～九州

殻高：12.5mm 殻径：6.5mm

特徴：水田地帯の用水路や側溝など、陸域と水域をつなぐ水際の推移環境（エコトーン）に生息するが、水中に入ることはない。

○スナガイ (*Gastrocopta armigerella*) [キバサナギガイ科]



1mm

分布：本州・四国・九州・奄美・沖縄

殻高：1.5～2.5mm 殻径：0.7mm

特徴：海浜の砂丘や海岸林に多く一般に海浜性。

(3)外来種

陸産貝類調査では、特定外来生物及び要注意外来生物は確認されなかった。

2.6 土壤生物調査

2.6.1 調査実施日

土壤生物調査の調査実施日を表 2.29に示す。調査は各季節 1 回、計 4 回実施した。

表 2.29 土壤生物調査実施日

季節	実施日
春季	平成 21 年 6 月 20 日
夏季	平成 21 年 8 月 22 日
秋季	平成 21 年 11 月 29 日
冬季	平成 22 年 2 月 6 日

2.6.2 調査結果

(1)結果概要

土壤生物調査結果を表 2.30に示す。

土壤生物調査で確認された種は、4季合わせて2門4綱8目10科14種であった。

季節別に確認種数が最も多かったのは、11種が確認された春季であった。また地点別では、10種が確認された樹林帯、移行帯下流部及び移行帯上流部が最も多い結果となった。

なお公園環境では、ゴミや大きな石が少ないため、土壤生物はほとんど確認されなかった。

また陸産貝類調査での確認種は、数個体程度の確認がほとんどであり、比較的多くの個体が確認されたのは、樹林帯や移行帯のみであった。これらの地点で優占していた種は、オカダンゴムシ、ワラジムシ、クロベンケイガニなどであった。以下にこれらの種の概要を述べる。

優占種

○オカダンゴムシ (*Armadillidium vulgare*) [オカダンゴムシ科]



分布：全国各地

体長：14mm まで

特徴：人家の庭や公園、荒地など、いろいろな場所に生息する。

石の下や落ち葉の下に多い。世界共通種。

○ワラジムシ (*Porcellio scaber*) [ワラジムシ科]



分布：北海道、本州（鳥取県以東）、徳島県

体長：12mm

特徴：庭、公園、ゴミの下、草むらなどに生息する。

○クロベンケイガニ (*Chiromantes dehaani*) [ベンケイガニ科]

※詳細は 86 ページ参照

(2)重要種

土壌生物調査では重要種は確認されなかった。

(3)外来種

土壌生物調査では外来種は確認されなかった。